

令和 8 年 4 月 2 8 日	病害虫発生予報 5 月 号	茨城県病害虫防除所
---------------------	------------------	-----------

ナ シ

1. 黒星病

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	平年並～やや多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 4 月中旬現在、発病花そう率（本年値 0.13%、平年値 0.13%）、発生地点率（本年値 10%、平年値 16%）ともに平年並である。
- ② 気象予報によると、向こう 1 か月の降水量は平年より多いと予想され、発生を助長する条件である。

[防除上注意すべき事項]

- ① 花そう基部病斑（芽基部病斑）は葉や果実への伝染源となるため、見つけ次第花そうごと除去し、園外に持ち出して適切に処分する。
- ② 落葉上の子のう胞子は4～5月に降雨があるたびに飛散し、葉や果実に感染するので注意する。
- ③ 薬剤防除は、生育ステージをよく観察し、気象情報に注意して適期に確実に実施する。
- ④ 薬剤は、10 a 当たり 300 リットルを目安に丁寧に散布する。圃場の周縁部等、薬液のかかりにくい部分に対しては、手散布等により補正散布を行う。

2. ナシヒメシンクイ（越冬世代～第一世代）

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	やや多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 4 月中旬現在、フェロモントラップへの越冬世代成虫の誘殺数は、土浦市、笠間市、小美玉市で平年より多く、筑西市（下館地区）でやや多く、筑西市（関城地区）で平年並～やや多く、かすみがうら市で平年並である。

[防除上注意すべき事項]

- ① 交信かく乱剤を使用する場合は、第一世代以降の成虫を対象に 5 月中旬までに設置する。
- ② 薬剤散布の際は、10 a 当たり 300 リットルを目安に丁寧に散布する。圃場の周縁部等、薬液のかかりにくい部分に対しては、手散布等により補正散布を行う。